

～夢と希望をもち 未来にはばたく つばさっ子～



つばさ

7月号 No. 4
令和6年6月28日
さいたま市立つばさ小学校



7月の生活目標
身の回りをきれいにしよう

7月の保健目標
夏を元気にすごそう

生命の神秘と畏敬の念

校長 浅野 博一

6月9日(日)の夜8時頃、三貫清水を訪れると、三貫清水の会のお方や地域の方々がゲンジボタルの舞う姿を鑑賞していらっしゃいました。一度、絶えてしまったホタルが、自然環境が復元してくると、しなやかによみがえってくる生命の営みに自然の神秘を感じました。

5月18日(土)には、三貫清水の少し南で、竹の花が咲いているのが観察できました。昔の人々は「竹の花が咲くと不吉な事が起きる」と信じられていましたが、竹は、120年に一度、根に十分な養分をためて、一斉に花を咲かせて新しい種子を作り、自身は枯れ果てて、新しい世代の竹にバトンを移していく植物であるといえます。今から120年前の明治37年(日露戦争が起きた年)、一世代前の竹が一斉に花を咲かせて、種子を残し、発芽した竹がこうして次の世代へバトンを渡していく姿に、永遠に続く“時間の流れ”の雄大さを感じました。

つばさっ子の故郷には、こうした豊かな自然や、道端に残る石造物から感じる歴史、日進餅つき踊りなどの文化等が受け継がれており、地域に誇りと愛着をもち、未来の地域の担い手として逞しく成長して欲しいと願います。

さて、6月は様々な行事等に取り組み、仲間とのかかわりを通して、自身を成長させてきました。

6年生、国会議事堂の見学では、地元国会議員の方が、子どもたちにお話をしてくださいました。子どもの質問に、「わたしは、国際弁護士の仕事で、アメリカにいた時、9.11を目の当たりにして、政治家を目指す決意をした。」と語っていらっしゃいました。



現在の小学生のおよそ3分の2は、まだ発明されていない仕事に就くと言われていています。つばさっ子には、チャレンジして、失敗しても立ち上がり、自分らしく自分の道を歩んでほしいと願っています。

一方、子どもは、まだまだ発達途上の世界です。様々な衝突や感情のぶつかり合いを通して、“人間性”を学んでいきます。

UCLA医科大学精神科臨床教授 ダニエル・J・シーゲル博士、児童青年心理療法士 ティナ・ペイン・ブライソン博士 共著「しあわせ育児の脳科学」では、脳科学の知見をもとに、子どもの心の成長を促す育児を提案しています。…理不尽な理由で泣き叫ぶ子どもに大人が対処するには、どうすべきか。子どもたち自身は、まだ、思考と感情をうまく調整することを学んでいる段階であって、大人にとって、一見、反抗的に映るかもしれないが、実は、必死に状況を処理しようとしているといえます。

人間の脳は、①左脳(論理) ②右脳(感情) ③上脳(思慮深さ) ④下脳(反射的)の4つの部分に分かれており、子どもはこの4つの部分が統合されておらず、困難に対処することが非常に難しいのです。

なるほど、私自身、子どもの頃、泣き叫びながら、姉と激しい取っ組み合いのきょうだい喧嘩をしていたのを思い出します。

子どもが自身の感情に圧倒されて、混乱した言葉を発する際、つい、「一体、何を言ってるの! ○○しなさい!!」と命令で返したくなるものです。子どもの左脳の論理に訴えかけるものですが、まさに、子どもはその左脳を使おうと必死に苦戦しているのです。そこで、要求するのではなく、右脳的な感情に共感し、次に、左脳的な論理を使って方向転換させてあげるのです。人間の右脳と左脳、脳の上部和下部、脳と身体、そして個人の脳とみんなの脳…それぞれを調和させ、連携して働かせることで、子どもは、いやな感情を自ら乗り越え、自分で心の平穏を得られるようになるのです。

配線をし直す脳の可塑性に、生命の神秘や畏敬の念を感じます。

令和6年度さいたま市硬筆展覧会

【推薦賞】

【特選賞】

【優良賞】

つばさっ子の活動

子どもたちの願いが、たくさん詰まった七夕飾りができました。昇降口に飾ってありますので、ぜひご覧ください。ボランティアの皆様、ご協力ありがとうございました。



4年生社会科見学



6年生社会科見学



職員転出入のお知らせ

よろしく申し上げます

「まちのクールオアシス」について

さいたま市では、熱中症対策の一環として「まちのクールオアシス」を設置しています。暑さの厳しい夏の日中に外出した際に、暑さをしのぎ涼むことができる場所として、一定期間、公共施設を一時休息所として開放しています。外出時には気軽に立ち寄り、熱中症予防に役立ててください。

